

# 2021年度 光赤天連シンポジウム 「国際大型計画との関わり方を考える」

2021年9月6日(月)09:45-17:00

7日(火)10:00-17:00

8日(水)09:30-17:00

9日(木)09:30-17:00

- プログラムは[tennet:20103]、または光赤天連へぶ<http://gopira.jp/>のトップページからたどれる光赤天連シンポジウムのページをご覧ください。
- 質問はzoomの「リアクション」→「手を挙げる」でお願いします。司会が指名した方のみミュートを解除してお話してください。
- 本シンポジウムは録画しておき、参加登録をされた方のみ対象に、一定期間公開する予定です。削除してほしい箇所については、運営委員会にご相談ください。
- 時間内に質問しきれないことや、議論の時間で発言できなかったことなどは、光赤天連シンポのプログラムのウェブページに出ているgoogle docsに書き込んでください。
- 講演された方は、スライドを事務局([gopira-adm@gopira.jp](mailto:gopira-adm@gopira.jp))にお送りください。ウェブで公開します。

# 趣旨説明

近年、天文学・宇宙物理学観測計画は大型化が顕著

→ 国際計画が増える

選択肢：日本主導、対等参加、海外主導計画への部分参加

そこで、

これまでの国際計画での経験や

コミュニティに期待することをレビューしていただく

現在進行中、あるいは計画立案中の国際計画を概観

宇宙研・国立天文台とコミュニティの関わり

→ 実現まで至らせるために今後すべきことを議論

# 光赤天連とは

- 昭和55年(1980年)12月1日発足
- 会則第2条 本会は光学・赤外線天文学の発展を目的としてそのために必要な各種計画の推進、研究会の主催を行う。
- これまでに、数々のシンポジウム（定例・単発）を開催し、その時々で必要かつ重要な議論を行なってきました。
- 特に将来計画：
  1. 2010年代の光赤外天文学-将来計画検討報告書- (2005年3月20日 発行)
  2. 2020年代の光赤外天文学-将来計画検討報告書- (2016年8月20日 発行)
  3. 2030年代の光赤外スペース将来計画に向けた検討報告 (2018年2月28日 掲載)
- 他にも、日本学術会議・マスタープランへの推薦、大学望遠鏡や大型計画を推進するための声明発出など。
- 詳しくは光赤天連るぶ(<http://gopira.jp>)をご覧ください。

## 光学天文連絡会会報No.1から(1980年12月10日発行)

- 日本の天文学将来計画の中で、現在、次期大型地上望遠鏡の建設が中心課題となっています。また、今後の日本の天文学を考える上で、望遠鏡そのものの計画とともに、将来に向かっての体制、国際協力を築いてゆくことの重要性が高まっています。
- 従来の各大学間の枠を超えた、全国の光学（赤外を含む）研究者、技術者の組織の必要性が訴えられ多くの人々の賛同を得ました。

(次ページに続く)

- 国内あるいは国外の望遠鏡設置が訴えられると同時に、我々自身が解決しなければならない問題が数多く指摘されました。例えば、
  - 国内、国外とも今後10ないし20年の天文学の発展を考えた時に、それに見合った望遠鏡、装置等はどのような大きさ、種類のものか？また、その建設の順序はどうあるべきか？
  - 大型装置を支える体制作り、将来の共同研究所への移行をいかにすべきか？
  - 現在の我々の技術の評価、今後の技術レベルの向上、マンパワーの育成
  - 国際協力推進のための体制
  - 10年後、競合するであろう他分野（電波天文学等）、あるいはNGT(Next Generation Telescope)等々が課題として挙げられました。

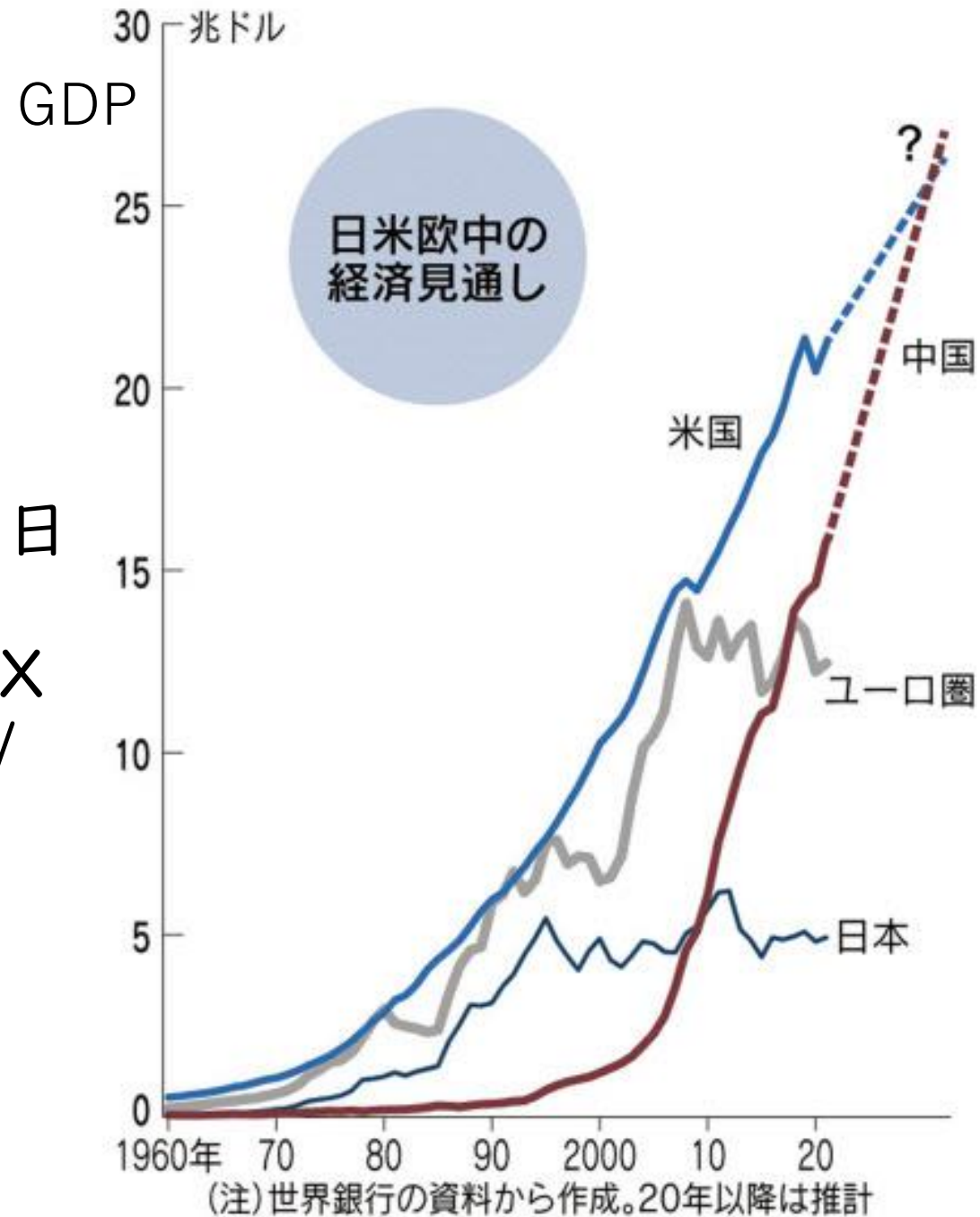
今まさに、我々が直面している状況と同じでは？  
一方で、、、

# 国際社会の中の日本

- 経済的な日本の地位の低下？

右図は日本経済新聞の2020年10月13日の記事

<https://www.nikkei.com/article/DGX MZO64950280T11C20A0EA2000/>より



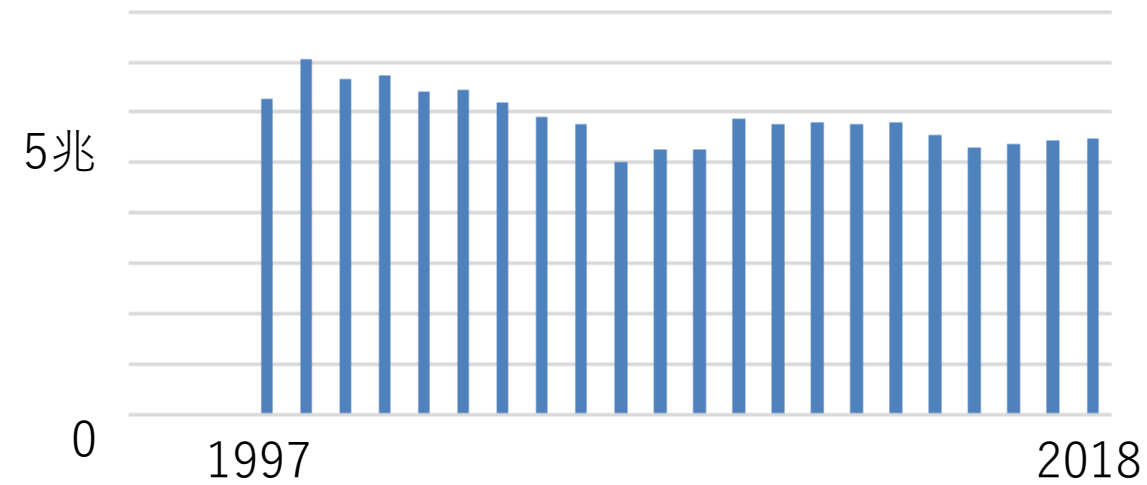
# 日本の予算

- 教育文化費(学校教育費・社会教育及び文化費・科学振興費・災害対策費の合計)はほぼずっと横ばいか低下傾向

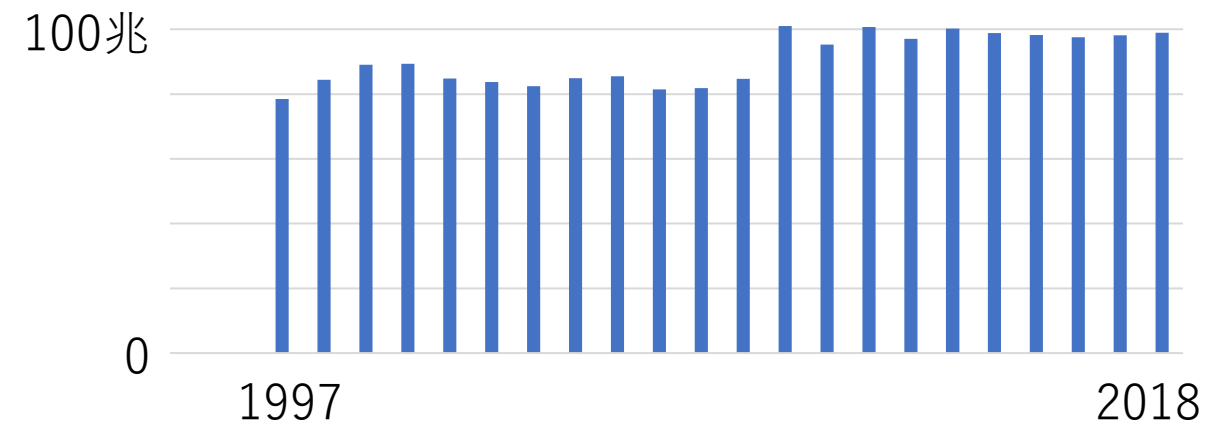
右図は財務省の統計一覧のページの公開データに基づく

<https://www.mof.go.jp/policy/budget/reference/statistics/data.htm>

教育文化費



(参考)一般会計歳出決算合計



# 今、我々は？

- 研究プロジェクトの大型化・国際化
- 国内の科学予算が増える見込みは薄い。この認識の上で、これまでの光赤外天文学の進展を踏まえ、
  - 日本の(光赤外線)天文学の発展のために、我々は今
  - 何を目指して
  - 何を
  - どうやっていけばいいのか、いくべきなのかを皆で考えたい。



# 運営委員会、将来計画検討専門委員会の 推薦投票について

- どちらも重要な役割を担っています。光赤天連会員の皆さんは、(光赤外線)天文学の将来を考えて必ずご投票をお願いします。
- 締切はこのシンポジウムの終了直後の9月9日(木)午後6時です。詳細は[gopira:01402] [gopira:01403]をご覧ください。
- 光赤天連のあらゆる推薦投票で、少なくともこの数年で投票率が20%を超えたことはなく、多くは10%台前半です。これでは、光赤天連会員は光赤外線天文学、あるいは天文学全体の発展のことを考えていないのか？と言われても仕方ありません。